



No. '24-2

(No.117)

Apr. 2024

ISGG NEWSLETTER

伊東市善意通訳の会

C O N T E N T S

1. 窓際のガラちゃん	菊池 善次郎	2
2. 第4回英語講演会を終えて	主原 一雄	5
3. Sophieさんの伊東市内案内（午前の部）	加藤 守康	7
4. Sophieさんの伊東市郊外案内（午後の部）	加茂野まり子	8
【新会員紹介】	藤本 稔	12
【事務局便り】		13
【編集後記】		14



第4回英語講演会の後川奈ホテルで

窓ぎわのガラちゃん



会員 菊池善次郎

ガラちゃんとはわが家の窓辺に来る野鳥の“ヤマガラ”のことです。私の家の食事をする部屋は2階、南東側の角にあります。南側には小さな庭があり、梅の木、柿の木、キンカン、ヤマボウシ、ヒメシヤラなど庭木が植わっています。その向こう側はちょっとした林になっていて、シロダモ、ヤブニッケイ、クサギ、ハゼ、ヒノキなど雑木が植わっています。野鳥が餌を探したり巣を作ったりするにはいい環境の様です。1年中近くに野鳥を見かけます。

コロナ禍の頃、2階ダイニングの窓ぎわに鳥の餌箱を作りヒマワリの種をホームセンターで買ってきて餌箱に入れておきました。



鳥たちはそれを直ぐに見つけ窓ぎわにやって来る様になりました。ヤマガラとシジュウガラは毎日、カワラヒワは時々です。1年中やってきます。中でもヤマガラが一番頻繁にやって来ます。不思議と私たち夫婦の食事時間に合わせるかの様に朝、昼、晩、同じ時間にやって来ます。1羽で来る時と2羽（多分つがい）で来る時といろいろです。餌箱に餌がないとその上のバーに止まり、部屋の中をキョロキョロ見ては時々「ピーッ」と鳴きます。「腹減ってるよー」とでも云ってる様です。「餌ないかな・・・」、とヒマワリの種を手の平にのせて窓から突き出すと、なんと手の平の上に飛び乗ってきます。野生のヤマガラがこんなにも人慣れしているとは思っていませんでした。



手乗りするヤマガラ

天城の山奥で偶にヤマガラが山歩きの人の肩や頭に乘ってくる話は聞いたことがありますが、実際に体験してみてもちょっと驚きます。手の平の上に乗るとつぶらな瞳でじっとこちらを見て「ピーッ」と一鳴き。「ありがとうー」とでも云ってる様です。それが

らヒマワリの種を啜ると庭木の方へ飛んで行ってそこで食事です。

食べ終わると又窓ぎわへ戻り種を啜っては又庭木へと行ったり来たりの繰り返しです。付き合い切れません。窓を閉めている時は餌箱の縁にとまり両足でしっかり種を押えて頭を上下に激しく振って口ばしで種を突つき皮をむいては中身を食べます。「ゴン、ゴン、ゴン」。大きな音を響かせます。

なるほど、手のひらの上は柔らかくこの動作が出来ないから庭木の枝に行っては種をむいているのです。2羽が同時に来た時はどうするかと云うと、1羽が餌箱を占有することなく2羽共庭木へ行ったり来たりして庭木で食事です。更にシジュウガ



つがいで餌を食べるメジロ

ラが加わった時も全員庭木へ行ったり来たりして食事です。餌箱を奪い合うことなく順番待ちする様子は私たちの生活の心得にも似ています。

冬場メジロも多く近くに見かけるので隣接して窓ぎわに餌箱を作ってやりました。メジロの餌は蒸かしたサツマイモをつぶしたものとミカンの輪切りです。餌が違うのでヤマガラやシジュウガラと争うこともなくお互い不干涉に悠々と餌を食べてます。メジロは2羽つがいで来ます。10月から翌年3月頃までで夏はどこかへ行ってしまいます。メジロは警戒心が強くいつも落ち着きがなくキョロキョロして家の中で人の動く気配を感じるとすぐ逃げて行ってしまいます。やはり人の手に乗ってくるヤマガラが可愛い一番人気です。

今年の正月福島から高校生の孫娘が遊びに来た時、自分の手の平に乗って来るヤマガラを見て『可愛いー！幸せー！』と満面の笑顔でした。確かに年齢に関係なく癒されます。その時間はウクライナやロシアも考えず、パレスチナもイスラエルもなく、イランの復讐や紅海の船舶ハイジャック事件も考えず心穏やかな至福のひと時です。

心配事が一つあります。「私たち夫婦にもしものことがあったら、この子たちはひとりで餌をとって生きていけるのだろうか？可愛いがりすぎるのも問題かな？」などと思う時もあります。妻は「大丈夫ですよ。今まで生きて来たんだから」と言います。まあ、ほどほどに楽しむことにしています。

余談になりますが、伊豆半島には何種類ぐらの野鳥がいると思いますか？ 伊東自然歴史案内会の資格取得研修の時の古いノートをめくってみました。講師は鳥の先生こと渡辺高助氏でした。

日本全国で観察されている野鳥は、^{おおよ}凡そ550種類。その内伊豆で観察されている野鳥は約300だ

そうです。全国の野鳥の半分以上が伊豆で観られるのです。伊豆はいい景色ばかりではなく自然が豊富だから野鳥も多いと云うことでしょうか。観光PRやガイドに伊豆の野鳥を大いに役立てたいものです。

日本人の案内の時、或いは外国人ガイドの時、城ヶ崎海岸や大室山で時々聞かれたことがあります。

『あの鳥、何と云う鳥ですか？』。「今聞こえる鳴き声、鳥ですか？」。正直、半分ぐらいしか分かりませんでした。それでも子供の時から知っている鳥やガイド研修で覚えた鳥は答えられました。「ヤマガラ」、「モズ」、「イソヒヨドリ」、「シジュウガラ」、「コジュケイ」、「ウミネコ」、「アマツバメ」、「オオミズナギドリ」、「ウミウ」、「メジロ」、「ウグイス」、「コゲラ」、「セグロセキレイ/キセキレイ」、「ジョウビタキ」、「トビ」、「ホオジロ」……。城ヶ崎海岸付近には野鳥が結構います。

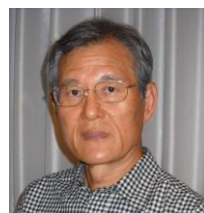
城ヶ崎海岸の案内の時、こちらからどうしても説明したい鳥がいます。上記の中の「アマツバメ」と「イソヒヨドリ」です。何故？詳しいことは省きますが、「アマツバメ」と云う鳥は毎年4月から9月にかけて城ヶ崎海岸門脇灯台のすぐ近くにある“つばくろ島”という島にやってくる渡り鳥です。翼の長さ40センチ超。静岡県ではこの島だけにしかやって来ない鳥です。新幹線並みのスピードで飛びまわり、抱卵の時以外は一生の殆どを空中で過ごすといわれる不思議な鳥です。

そして「イソヒヨドリ」。伊東市の市鳥（市長ではありません）に指定されている鳥です。大きさ26センチぐらいで「幸せの青い鳥」とか「海辺の宝石」などと呼ばれるぐらい美しい鳥です。海岸近くでよく見かけます。

城ヶ崎海岸や大室山のお客さん案内の時、野鳥を勉強し現場で説明する楽しさも又ガイドの一興です（でした、かな）。



第4回英語講演会を終えて



会長 主原 一雄

マリリン・モンローの名前は多分もう物心が付くころには知っていたかも知れません。只、ちゃんと女優として知ったのは1970年の冬、夜中過ぎのテレビの再放送でたしか白黒の映画で「River of No Return」を観た時でした。ストーリーの面白さとマリリンの歌のうまさに魅了されたのを覚えています。その後、「Bus Stop」、「The Seven Year Itch」、「How to Marry a Millionaire」等をやはり夜中の再放送で観た記憶があります。

さて昨年の夏になりますが、友人の Paul Hoff さんと話していて2024年2月がマリリン・モンローがジョー・ディマジオとの新婚旅行で来日して満70年であり、その事をドキュメンタリーとして出版しようとしている人がいると聞きました。これは次の英語講演会の題材として面白いのではないかとそのドキュメンタリー作家とコンタクトを取ってみました。その方は Mary Ashleigh さんという方で現在横浜在住です。伊東市善意通訳の会、過去の英語講演会、そして我々が英語講演会を開催する主旨などをお話すると殆どが自費にも係わらず講演に同意いただけました。実は私がマリリンとジョーご夫妻がその来日の折、川奈ホテルにも滞在していたことを知ったのはその後でした。これはぜひ川奈ホテルで講演会を開催したいと思い、当会の副会長で川奈ホテルに永年務めておられた加藤達雄さんに相談すると取り敢えずホテル側に意向を伝えることになり、Paul さんを含む3人でホテルを訪問しました。ホテル側は我々の主旨に賛同してくださり、ありがたくホテルの会場で開催する事が可能になりました。又、Mary さんは2度、伊東に事前取材に来られました。その時加藤さん、そして伊東の生き字引と言える水口進吾さんがお世話下さり又、多くの情報・資料を提供して下さいました。

当日はあいにくの天候で多くのキャンセルがありました期待を大きく上回る100名近くの来場者で素晴らしい会場と設備を使い講演が始まりました。Mary さんの話はマリリンの映画会社での冷たい扱い、それがどう Joe との結婚に結び付き、来日中の日本での熱狂、又、それがその後のマリリンの女

優としての飛躍に繋がったか等、多くの写真を使い判りやすく楽しい講演でした。



講演中の Mary さん



川奈ホテルでの講演会

質疑応答はマリリンの死の真相、ケネディ大統領との関係等、多くの質問・意見等が寄せられ、又、Mary さんのケネディ大統領の誕生パーティでマリリンが歌った Happy Birthday の物まね等、興味深く和やかな雰囲気でした。閉会の辞で加藤さんが 40 数年に渡り川奈ホテルに勤務されていたことを話されると大きな拍手を持って無事講演会は終了しました。

講演会終了後は会員有志と Mary さんとご友人、Paul さんを交え、「かっぼれ」での気楽で賑やかな夕食会を持ち無事、全予定が終了しました。



(左) 伊豆新聞記事

(右) かっぼれでの夕食会

Sophie さんの伊東市内案内〈午前の部〉



会員 加藤 守康

伊豆(下田)SGGの土屋紀元さんの依頼を受け、2024年4月19日(金)〈午前の部〉として、英国ロンドンに住むフランス人女性 Ms. Sophie Renaude さんの伊東市内案内を担当することになった。

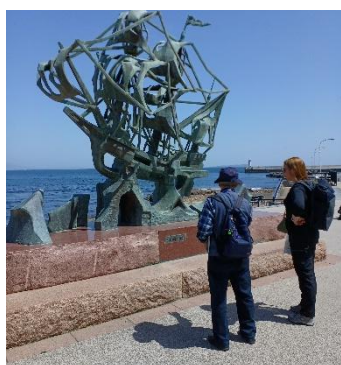
天候は昨夕の大雨と濃霧が嘘のように消え去ったあとの快晴で、青空と木々の緑が目にしみる清々しい案内日和の1日であった。

Sophie さんは40代後半の、数か国語を話す、気さくな人柄の女性であった。Sophie さんは打ち合わせ通りに伊豆北川のホテルを早朝に出発し、北川駅から自分で伊豆急行に乗り、8時49分に伊東駅に到着し、8時52分頃 改札口で対面することができた。リュックを背負い、颯爽とした出で立ちであった。駅舎内の待合室に移動し、ガイドプラン・地図・パンフレット等の資料が入ったファイルを渡し、簡単な打合わせを済ませて、英語による市内案内を開始した。

ガイドプランに従って、以下のようにガイドが進められていった。①伊東駅についての説明 ②伊東駅から路線バスに乗り、市役所へ移動 ③市役所見学(8Fから市内のパノラマ風景を眺望。1Fのサン・ビエナ・ヴェンツラ号の説明) ④日蓮宗霊跡本山仏現寺の見学(Sophie さんは、家族用にいくつかの厄除けと開運の御守りを購入) ⑤天照皇大神社の見学(国の天然記念物、ウグイスが鳴く社叢と北限のリュウビンタイを見る) ⑥按針メモリアルパークの見学(海の男 W. Adams の胸像、洋式帆船建造400周年記念塔、サン・ブエナベントウラ号、エドモンド・ブランデン記念碑など) ⑦なぎさ彫刻公園の見学(17の全像を見る。天城連山・大山等の遠望を眺める) ⑧按針記念碑、洋式帆船建造のタイル画の見学。⑨築城石の説明。⑩藤の広場の見学(美しく開花中の藤の花を観賞) ⑪松川遊歩道を歩く(K's ハウス、東海館等の街並み50選の光景を眺める) ⑫東海館の見学(今日見てきた場所を確認しながら案内) ⑬K's ハウス・キネマ通り・湯の花通りを説明しながら歩く ⑭成木屋でランチをとる(ウイ

ンドウの商品サンプルを見て握り寿司を選び、50分位の時間をかけゆっくり味わう。雑談に花が咲く) ⑮伊東駅ホームで12時52分発伊豆急リゾートの展望車に乗る Sophie さんを見送る。

Sophie さんは私(加藤守康)が担当する〈午前の部〉を終え、〈午後の部〉担当の加茂野まり子さんが待つ伊豆高原駅へ向かった。本日の〈午前の部〉伊東市内の観光案内はほぼ予定通りに進行することができた。Sophie さんと色々英語で話す機会も持てたし、今回の案内を大変喜んでくれたことがうれしく、記憶に残る楽しい案内の1つであった。同時に自分なりにいくつかの反省点も見えてきたので、それらを次の案内時に活かして、さらなる改善を目指していきたいと思う。



按針メモリアルパークにて



東海館前にて

Sophie さんの伊東市郊外案内 〈午後の部〉



会員 加茂野まり子

案内箇所とルート：伊豆高原桜並木口広場 → リンガフランカ（城ヶ崎郷土資料館） → 八幡宮

来宮神社 → 伊豆高原桜並木通り → 大室山 → 桜の里 → 門脇灯台・吊り橋・つばくろ島 → 加茂野宅

『13:17 伊豆高原駅到着』

午前中の伊東市街地案内をされた加藤守康さんからバトンタッチして、予定通りの伊豆急行で伊豆高原駅に到着された Sophie さんを改札口で出迎えました。二日前に Sophie さんからのメールで京都の写真と共にご自身の写真も添付されていたので、すぐご本人がわかりました。笑顔の素敵な柔らかな印象の女性でした。前日とは打って変わって素晴らしい天候に恵まれ、気持ちの良い案内をスタートすることができました。

構内待ち合わせ室で5分ほど簡単にご案内する場所とルートを説明した後、まずは少し“おまけ”のようになりましたが、駅の桜並木口にある築城石を簡単に説明し（午前中に加藤さんからご案内済みなので）、明日東京に移動されることから、皇居東御苑で築城石が見られることをご紹介しました。またフレンチ料理の巨匠と言われる三国シェフ経営のレストラン「ミクニ伊豆高原」の建物は、日本の著名な建築家で 2020 年完成の東京オリンピック競技場を設計した「隈研吾」氏のデザインであることを説明しました。

『13:30 リンガフランカ見学』

日本伝統の刺し子の展示会が開催されていたのでご紹介したく短時間見学していただきました。ロンドンにあるユニクロ旗艦店で2年前から刺し子の技術による穴の空いた洋服などの修繕サービスを行っていることを伝えると、ご存知なく驚かれていました。館内には色々なお土産物も販売していて、妹さんや姪御さんへのお土産を物色されたりしました。

『13:50 八幡宮来宮神社を見学』

駐車場に到着後、鳥居の前で鳥居の意味と真ん中は神様の通り道なので参拝者は両端を通ること、日本には神社が8万あり、お寺は7万5千、ちなみにコンビニには5万5千軒あると説明すると、「コンビニも宗教みたいなのね」と言われ、笑ってしまいました。確かにコンビニ依存の人も多くいるようですから。



八幡宮来宮神社の境内で

ら、神社の歴史や国の天然記念物に指定されている社叢の素晴らしさ、二つの神社が合祀されて現在の神社になっているが、片方の来宮の神様がお酒が好きで云々の話も笑って聞いてくださいました。途中の手水でのお浄めの方法、拝殿前での参拝の方法なども神妙に聞いてくださって、お賽銭を入れて何事か真剣にお参りされている姿が素敵でした。

鳥居までの下り坂の参道をゆっくりゆくりと歩きながら、耳に入るのは風の音や小鳥の囀りだけ、木漏れ日の清々しさと優しさを感じるひときは、自然と一体になった気分でもとても幸せです、と仰っていました。

今回の旅行は行列を作っているような有名な場所ではなく、あまり知られていなくても素晴らしいところが日本には沢山あると思うので、そんな場所に行ってその場所・土地の人達との触れ合いや食べ物、珍しい経験などゆっくりと自分のペースで体験したい、とのご希望でした。そして、八幡宮来宮神社はまさに来たかった場所、と仰ってくださいました。

『14:40 桜並木通りを上り遠笠山道路を左回りに大室山へ』

心配していたリフトも運行中でしたので、二人で

「よかったね！」と。

リフト乗車は少し興奮するらしく Sophie さんははしゃいでいました。山頂は風が少し強かったのですが、日差しが眩しいくらいのお天気でしたので、遊歩道一周も大変楽しんで

いただけました。大室山の成り立ちや、火山活動から受ける恩恵、大室山からは火山活動の典型的なもの

(スコリア丘、マール、溶岩ドームなど)が見られる貴重な場所、国指定の天然記念物であること、など説明しながら雄大な景色を満喫していただけたと思います。途中の浅間神社にまつわる姉妹神の話、八ヶ岳地蔵尊、五智如来地蔵尊などの説明をしながら一周しました。景色を見ながら Sophie さんは「こんな大自然の中にいると、なんて人間はちっぽけなのかしらと思う」と、とても素直な方です。

残念ながら視界がスッキリせず富士山の姿は見えませんでした、Sophie さんは「また見に来るから大丈夫。何でも見なくて、とは全然思わないから」。帰りのリフトも揺らしながら楽しんでいました。

インバウンドが増えていると聞いていましたが、この大室山に来られていた方々の半数は外国人でした。



大室山山頂で。生憎富士山の姿はお預け。

びっくり！

『15:40 桜の里を見学』

予定より 25 分ほど遅れていましたが、時間に追われての見学はしたくないとのことでしたので、気にせず桜の里もゆっくり見学しました。40 種、3000 本の桜の木があると言われていたのですが、この日もまだまだ咲いている木があり十分にお花見ができて、盛んに写真を撮っていました。

20 人ほどの見学者の中で外国人は半数ほどでした。

『16:10 門脇灯台と吊り橋、つばくろ島の見学』

今日最後の案内場所となり、夕方に差し掛かって駐車場も数台しか車がありませんでした。まず門脇灯台の上まで登りましたが、思ったより長い階段で私は正直きつかった



さくらの里はまだ沢山桜が咲いていました

ですが、そうも言えず頑張って登りました。灯台の最上階から見える景色はやはり素晴らしく、大室山から流れ出た溶岩の先端がよく観察できました。壮大な柱状節理（正確な英語が出てこなくて説明に苦労しました）がよく見られました。

灯台を降りてから、吊り橋へ。ここも多くの外国人が見学していました。

Sophie さんはお菓子作りのシェフ（パティシエ）であり、小説家でもあり、これまでフランス語で犯罪小説を 2 冊出版しているそうです。ですので、この吊り橋はサスペンスドラマの舞台でよく使われるので、次回の Sophie さんの小説を書くアイデアに使えませんか、と冗談半分でお話しました。

吊り橋を渡った先で「つばくろ島」と「アマツバメ」の説明をしました。「つばめ」とは種類が違うんですよ、と伝えると、フランス語で「つばめ」をなんというか知っていますか、との質問。勿論「知りません」と答えると「Hirondelle」と教えてくれて、発音を真似てみたところ「Good」と褒めてくれました！でも、とても難しい言葉です。

実は大室山一周をした後、少し疲れ気味になったことを察して「もう無理せずにこのあとはスキップしてもいいですよ」と気遣っていただいてしまい、とても気配りのある優しい方だと、感激してしまいました。ガイドとしては疲れは見せてはいけないのですが。

『17:00 加茂野宅に到着、ガイド終了』

Sophie さんが宿泊された北川ゲストハウスは素泊まり宿で食事のサービスは一切なく、周囲には（徒歩圏内）お店が1件もないため、二日間の夕食はコンビニのおにぎりとお聞きしました。あまりにお気の毒で、これでは伊豆の印象が悪くなってしまうのではと思い、自宅にお招きして一緒に夕食をしていただくことにしました。

最初に大阪に到着された夜は、ホテル近くの居酒屋に入ったところ、とても歓待してくれてグーグル翻訳を使いながら美味しい食事ができたと日本人の優しさに感動されたそうですので、そのお気持ちを大切にしたいと思いました。

ガイド中はずっと会話が途切れることなく、色々なことを素直に受け止められていらして人間性豊かな女性だと思いました。

最後にお見送りした際には「また必ず日本に来ますね」と仰ってくださいました。

ISGGのメンバーになって初めてのガイドでしたが、非常に素晴らしい出会いができ感謝しております。また、英語でどう理解しやすく伝えられるか、ジオ関連の語彙の習得等々、まだまだ勉強することがあり、ますます努力せねばと思いました。

【新会員紹介】



2024年3月に入会させていただきました **藤本 稔**

と申します。

伊豆高原には、2020年10月に横浜から移住して参りました。現在は、妻と3匹の猫との5人(?)暮らしです。

「伊東市善意通訳の会」に出会えたのは、八幡野コミュニケーションセンターに立ち寄った際、第4回英語講演会のポスターが目にとまり、当会の活動内容をお聞きして英語を通じた人との交流に興味湧いてきたのがきっかけとなりました。

私は、過去に英語通訳という仕事に携わった経験はございませんが、英会話には興味があり、移住して以来どこかに“英会話サークル”がないかと探していたところ、当会に巡り会えることができました。

英語は本来嫌いな言語ではなかったのですが、英会話の必要性に駆られたきっかけは就職した輸送機器メーカーの航空機材料・部品を扱う営業部門において、海外の現地法人や海外メーカーとの取引を行う日常業務の中において“読み、書き、話す”が必須になってしまったからです。それからは、英会話養成合宿研修や ECC、また母校である早稲田大学のエクステンションセンターにて等々、必死の勉強が始まりました。でも習い始めて何年か経った時、ふと“自分の考えていることが会話として表現できるようになったのでは？”と感じ、不思議に思えたことを今でも記憶しています。

すでに会社を定年退職して何年も経過していますので、Vocabulary や文法もすっかり薄れている今日です。今回「伊東市善意通訳の会」に入会させていただける機会を得ましたので、初心に帰り辞書を片手にコツコツと勉強していきたいと思っております。

伊東市民になってまだ3年と浅く、伊東市や伊豆半島の歴史や文化についてほとんど何も知識がありませんので少しずつではありますが、学んでいこうと思っております。そのためにも2024年度から、伊東市主催の「伊東自然歴史案内人養成講座」を受講しようと考えております。

移住してから地元自治会の皆さんや、昨年趣味で始めたピアノ（ピアノと言っても電子ピアノですが・・・）の勉強仲間達との交流も少しずつ深まりつつある現在です。

皆様、どうぞ宜しくお願いいたします。

【事務局便り】

まず当期の重要活動として2024年度第35回総会が4月12日（金）中央会館にて開催されました。23年度の活動報告及び決算報告、役員改選案そして24年度事業計画と予算の5議案を審議し全て賛成多数で可決されました。総会後は「イルゴルフ」にてフォカッチャとソフトドリンクでの懇親会が開催され無事予定を終了しました。

次に第4回英語講演会をドキュメンタリー作家の Mary Ashleigh さんを講師に70年前の2月にジョーディマジオ氏との新婚旅行で来日したマリリン・モンローについて「マリリン・モンロー：変革の旅 in Japan」と題し当時宿泊した川奈ホテルで開催しました。又、その後に講演者を交え「かっぱれ」にて夕食会が開催されました。

又、月例活動であるイチゴサロン・土曜会・英語サロン・K's サロンも順調に開催されました。今後も多くの会員の皆さんの参加をお待ちしております。

最後になりますが今期も新会員を迎えることができました。 藤本稔さん、ISGG によろこそ！

【編集後記】

最近テレビの気象情報で「観測史上最高の・・・」「例年にない・・・」という言葉を何度耳にしたことでしょうか。今、春なのか？冬なのか？はたまた夏なのかわからなくなってしまうような気温の変動の激しい季節の変わり目でした。

そんな中でも自然界の花や鳥は間違いなく春を告げ、菊池さんの庭にも小鳥たちが沢山集まってきているようです。ヤマガラが頭が良く、人に慣れやすく、芸も覚えるという話は聞いていましたが、身近で野生の鳥が手に乗ってえさをねだる話に驚きました。ほっこりする話題をありがとうございました。

今回の一番のイベントは第4回英語講演会でした。70年前にマリリン・モンローが新婚旅行で訪れた川奈ホテルを会場にしたいという淡い希望はあっても、コロナ以降一切の補助金やバザー収入の無くなった ISGG の小さな予算の中でどうやって実現させたらいいのか？アクセスが町の中の会場より難しい川奈ホテルに、もし天気が悪かったら人が来てくれるだろうか？イチゴサロンなどで何度も話し合った後、Newsletter に投稿下さった主原さん、川奈ホテルに長い間勤務した加藤達雄さんらの尽力で川奈ホテル様が全面協力して下さることになり、そして講演者の Mary さんがほとんど実費のみで横浜から来て下さることになりました。当日は冷たい雨でしたが、100人を超える皆様が足を運んでくださり、おかげでなごやかに会を終えることができました。

また、コロナ禍の後途絶えていたガイド依頼が久しぶりにあり、加藤さんと加茂野さんがお引き受けくださり、心のこもったガイドぶりを投稿してくれました。今までのガイドコースにはなかったところまで、丁寧にガイドして、二日間おむすびしか食べてないというガイド依頼者を自宅までお連れして夕食をごちそうしたというおまけ付きで、きっと彼女にとって一生の思い出に残る伊東旅になったことでしょう。どうもありがとうございました。

また、今回掲載予定でした「35日間世界一周航空機の旅 第2部」を紙面の都合上次回にさせていただきます。ご了承ください。次回を楽しみにしてください。

それから、4月12日には総会があり、23年間会長を務めさせていただいた私、稲葉に代わり主原さんに会長をお願いできることになりました。23年間も会長をさせていただいて、その間一度も会に不快なことがなく、「ISGGは仲良しクラブだから」と揶揄されながらも楽しく活動を続けてこられたのは亡くなられた方々も含めて皆様のお陰と思い感謝しています。新会員も増え、これからも自由で楽しいISGGであるように祈っています。(N. I. 記)

伊東市善意通訳の会 (ISGG)

会長 主原 一雄

(事務局) 〒413-0232

伊東市八幡野 1324-40 主原 一雄

e-mail : larryn@estate.ocn.ne.jp

<http://itosgg.info/>

(編集委員) 稲葉尚子、曾我廣子、加藤達雄